



部は、任意の申請により審査を受け試験事業者として適切であるとして登録認定されました。

この度 J N L A 登録認定となった3つの試験区分は、次のとおりです。

- JIS A 1412-2 (材料断熱性試験、ただし付属書Bに係る試験は除く)
- JIS A 1416 (建築部材の空気遮音性能試験、ただし試料はドアなどの構成部材、窓及びガラスに限る)
- JIS A 4710 (建具の断熱性能試験)

住宅性能表示制度における建材等の性能確認では、J N L A 登録機関による試験成績書が求められる場合があります。今後、当本部ではJ N L A 標章が付いた試験成績書を発行することができます。

今後とも更なる試験品質の向上と依頼者の皆様のニーズに応えることを目標に取り組みでまいります。詳細は、北総研HPからもご覧ください。

<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/support/jnla.html>

---

### ひとことエッセイ「そなえよつねに」

---

9月1日。出張中で東京に宿泊の朝、ホテルで無料配布の朝刊に目をとおすと、あちらこちらに地震や災害に関する記事やお知らせが目に入る。

「もし、首都直下地震が発生したら～」・・・

9月1日は昭和35年に制定された“防災の日”。伊勢湾台風や室戸台風などに代表される甚大な台風被害が多い9月だが、今から93年前のこの日には関東大震災が起きている。また、二十四節気のひとつである立春から二百十日（にひやくとおか）目で、昔から災害の多い日と言われている。北海道は台風被害が少なく、程度も小さいと言われてきた。しかし、8月末から連続した台風上陸により甚大な被害がもたらされてしまった。被害に遭われた皆さまにはお見舞いを申し上げ、一日も早い復旧を願うばかりである。

ここ旭川は“全国一、自然災害の少ない街”と言われているが、盆地である旭川は地形的にも独特で、治水が十分でない明治から昭和の初期には水害の記録が随分と残っている。地震は？歴史上の記録や被害の痕跡が見つからないだけかもしれない。

災害が少ないことは、“街”としては大変ありがたい。でも、災害の事を忘れ去ってはいけないと思うが、旭川では防災の意識が薄らいでいるのを感じている。

私は旭川で生まれ育ち、進学・就職により旭川を離れた。子どもの頃の雪や寒さの記憶は数多だが、水害の記憶は無く、地震も昭和43年十勝沖地震の記憶ぐらいである。しかし、会社勤めを始めた街では、首まで浸かる大水害や、震度5強の地震に遭遇した。旭川にいる間は良い？かもしれないが、巣立って行く子ども達のためにも、大人が防災の意識もつことが大切である。先日終えた北総研一般公開のテーマは“防災”。ご来場いただいた皆さまには、何かしら学んでいただけたら幸である。

“そなえよつねに (Be Prepared)” この言葉はボーイスカウトのモットーである。平穏なときにこそ“備え”が大切であると思う。(ちなみに小学生であるカブスカウトのモットーは“いつも元気！”。これも大事ですね。)

(性能評価課 渡邊)

## 研究紹介「木造高断熱壁体の防耐火性能の実大試験検証と評価手法の提案」 (平成26～28年度 一般共同研究)

---

北総研では、北海道で普及する木造高断熱壁体を対象に、円滑かつ合理的な防耐火性能の評価手法の構築を目指し、多岐にわたる断熱材、断熱工法に対する防耐火性能の考え方を体系的に明らかにする研究に取り組んでいます。本研究は、断熱材メーカー6団体との共同研究で、これまで積み重ねてきた小型試験体による知見を実大試験にて検証して、評価手法を提案するものです。

初年度は、不燃性を有し最も耐熱性が高いロックウールを用いて、最後まで断熱材が溶融や燃焼しない条件下で検証を行いました。壁体内にロックウールを充てんとすると、屋外加熱、屋内加熱ともに防耐火性能が向上し、一方、外張りすると屋外加熱では断熱材が被覆材となり柱を守るが、屋内加熱では断熱材が非加熱側への放熱を妨げて、柱の損傷を促進させることを確認しました。

2年目は、高温になると溶融・収縮するグラスウールを充てんした壁体と可燃性を有する各種発泡プラスチック断熱材を外張りした壁体について、それぞれロックウールの場合との比較から、断熱材の溶融・燃焼が防火性能に及ぼす影響を把握しました。これらの壁体では、加熱側の内外装材が脱落すると、急激に溶融・燃焼が進み、防耐火性能が著しく低下する傾向があります。性能を保持・向上させるためには、内外装材を不燃材とし、内外装材を留め付ける下地と留付方法をより強固にすることが重要であると分かりました。

いよいよ最終の3年目となる今年は、ロックウールまたはグラスウールを充てんし、発泡プラスチック断熱材を外張りした付加断熱工法を対象に検討するとともに、これまでの試験結果、考察をまとめ、評価手法の提案を行います。

(建築技術G 糸毛)

---

イベント・行事予定

---

### ■きた住まいる技術講習会及び建築物省エネ法セミナー帯広会場 日程変更のお知らせ

平成28年度きた住まいる技術講習会及び建築物省エネ法セミナー・意見交換会を全道で開催しておりましたが、帯広会場の日程が下記のとおり変更になっておりますのでお知らせします。

変更前:9月 7日(水) とかちプラザ(帯広市西4条南13丁目)

変更後:9月29日(木) 十勝産業振興センター(帯広市西22条北2丁目)

詳しくはこちらからご覧ください。



<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/koho/event/kitasumairukousyuu.html>

### ■ジャパン ホーム&ビルディングショー2016 (10月26(水)日～28日(金)、 於 東京ビックサイト)に参加します

北海道では、道内の民間企業・団体・道総研などが「北海道パピリオン」として一丸となり、本道の住宅建築技術や道産建材の全国への販路拡大、情報発信などを行います。北海道ブースでは、出展企業が各ブースで自社の製品や技術のPRを行うとともに、ステージを設けて出展企業のプレゼンや北海道の住宅

技術の紹介などに関する特別講演、パネルディスカッションなどを行う予定です。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

建築指導課HP「Japan Home & Building Show のコーナー」

↓↓↓  
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ksd/jhsko-na-.htm>

(企画課 盛永)

---

### 最近の研究所の動き

---

#### ■「きて★みて★はっけん！！ほくそうけん☆公開デー」を開催しました

建築研究本部では、9月10日(土)、「きて★みて★はっけん！！ほくそうけん☆公開デー2016」を開催しました。午前中は雨が降っており、来場者の出足が心配されましたが、前回を超える387名の方に参加していただくことができました。

今年の公開デーでは初めて、共通のテーマを設け、実験・体験・展示コーナーを企画しました。テーマは「防災」です。大人も子どもも楽しみ、学ぶことができる地震、火災、津波等に関連する実験体験、展示コーナーを企画しました。今年、地震・台風等の被害が道内外で相次いでいることもあり、多くの方に今回のテーマや各ブースの内容に関心をもっていただけたのではないのでしょうか。

また、新たな取組として、地元旭川の関係機関・団体と連携したイベントを企画しました。旭川市防災安全部や旭川市消防本部との共催による消防体験や、防災対策を学ぶ展示、北海道建築士会旭川支部との共催による災害時の豆知識を学ぶコーナーなどにより、来場した皆さんに、貴重な体験や身近な視点で「災害」や「防災」について考えてもらうことができたと思います。

今回のイベントへの参加を通じて、「防災」に関する意識や日頃の備えの大切さについてあらためて考え、実行するきっかけとなれば幸いです。公開デーに来て下さった方々、またご協力いただいた各機関・団体の方々に厚くお礼申し上げますとともに、これからも建築研究本部の調査研究、試験評価などの取組をより広く知ってもらえるよう普及につとめてまいります。

(企画課 盛永)

#### ■構造計算適合性判定センターから

##### □8月の判定業務

受付 17件 (18棟)  
結果通知 16件 (17棟)

8月の判定依頼は、共同住宅7件、事務所・店舗5件、倉庫・工場3件、ホテル1件、学校等1件でした。なお図書付き事前相談を含めた受付件数は21件であり、昨年同月の7件(図書付き事前相談を含めると9件)を上回る状況となっています。

総判定日数(受付から結果通知までの期間)の平均日数は22.5日(前月比-4日)

程度)、実判定日数(設計者の修正期間を除く実際の審査期間)の平均日数は6.5日(前月比同程度)となりました。総判定日数が短縮された理由としては申請図書の完成度が高かったと考えられ、今後も申請者さんにご協力を頂き審査日数の短縮を目指していきたいと考えています。

隣国である韓国において、9月12日夕刻にM5.1及びM5.8の地震が発生しました。震源地は慶尚北道慶州市付近、震源の深さは約10kmであったと報道されています。

この報道を聞いて驚いたのは、先日の地震が韓国における観測史上最大の地震であったとの報道であったからです。隣国の韓国では地震の脅威についてあまり考えなくても良い土地柄なのかと思いましたが、過去の書物などを見ると頻度は少ないものの、大きな地震により被害を受けたとの記述もあり、決して地震被害の可能性が少ない地域と判断するのは適切ではないようです。

また活断層についても、朝鮮半島を北北東から南南西に向けて縦断するよう存在していることが確認されているようであり、地震に対しての防災意識が必要なことは他の東アジアの諸国とあまり変わらないようにも思われます。

(構造判定G 本間)

=====  
管理者からのお知らせ  
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。  
登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。  
メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

[https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken\\_n](https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_n)

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

[https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken\\_q](https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_q)

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

---

発行：(地独)北海道立総合研究機構 建築研究本部

<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/index.html>